

富士見丘中学高等学校

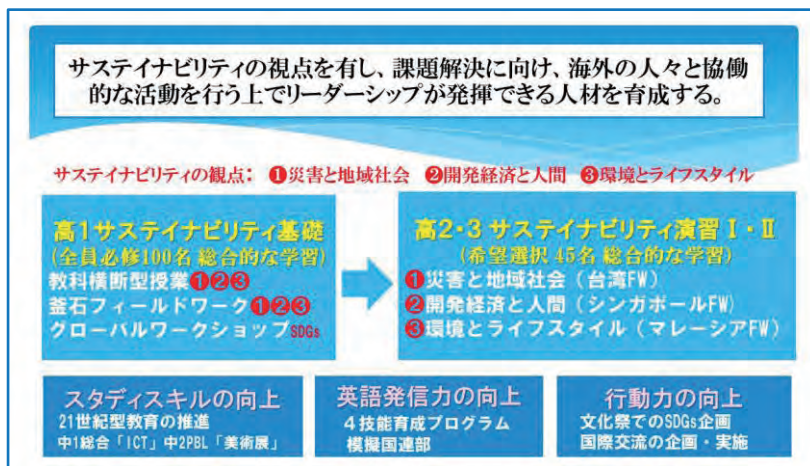
サステナビリティから創造する グローバル社会

【構想の概要】

サステナビリティの観点から社会をとらえ直し、地球規模の課題について海外の高校生や専門家と対話ができるようになるための教育プログラム「サステナビリティから創造するグローバル社会」を構築する。

生徒の課題研究を深めるため、連携大学・企業・国際機関などによる協力・支援のもと、教科横断型の探究学習「サステナビリティ基礎」「サステナビリティ演習Ⅰ」「サステナビリティ演習Ⅱ」の研究開発を行う。

また、各教科学習において研究の土台となるスタディスキルを身につける「スタディスキルの向上プログラム」、海外の高校生や専門家との対話・発信を可能とする「英語発信力の向上プログラム」、校外でのアクションによって主体性や責任感を養成する「行動力の向上プログラム」も併せて開発する。



	1年		2年				3年							
	必修科目	単位数	必修科目	単位数	選択α	単位数	選択β	単位数	必修科目	単位数	選択α	単位数	選択β	単位数
国語	国語総合	4			現代文B 古典B	3	現代文・古文読解演習 古文演習 漢文演習 国語総合(β) 小論文基礎 理系国語	2 2 2 2 2 2			現代文読解 古典読解 理系現代文演習 小論文応用	4 4 4 4	現代文演習 古典演習 国語総合演習 小論文演習	2 2 2 2
地理 歴史	世界史A 日本史A	2 2			世界史B 日本史B	3	世界文明史 日本文化史 地理B	2 2 2			世界史B 日本史B	4 4	世界史B演習 日本史B演習 地理B演習	2 2 2
公民									現代社会	2			現代社会演習 政治・経済演習 倫理演習	2 2 2
数学	数学I 数学A	3 2			数学II(a)	3	数学B 三角・指数・対数関数 文系数学IA演習 SAT MATH	2 2 2 2			数学IA演習 数学IIB演習 数学III SAT MATH	4 4 4 4	数学IA基礎演習 数学IIB基礎演習 数学III演習 SAT MATH	2 2 2 2
理科	化学基礎 生物基礎	2 2			化学(a) 生物(a) 物理 地学	3 3 3 3	化学(β) 生物(β)	2 2			化学 生物 物理 地学	4 4 4 4	化学演習 生物演習 物理演習 地学演習	2 2 2 2
保健体育	体育 保健	3 1	体育 保健	3 1					体育	3			体育実技演習	2
芸術	音楽Ⅰ	2	音楽Ⅱ	2			美術Ⅰ 書道Ⅰ	2 2					音楽演習 美術演習	2 2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰa R.A.L.A.* コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅰ A.O.C.* EXTENSIVE READING # ACADEMIC ENGLISH	4 2 2 2 1 1 (2)	コミュニケーション英語Ⅰa R.A.L.A.* コミュニケーション英語Ⅱb 英語表現Ⅱ A.O.C.*	4 3 3 2 2			ADVANCED ENGLISH I INTERMEDIATE ENGLISH I BASIC ENGLISH I LISTENING・SPEAKING I ACADEMIC ENGLISH	2 2 2 2 2	コミュニケーション英語Ⅱ R.A.L.A.* 英語演習 英語表現Ⅲ A.O.C.*	4 3 2 2 1		ADVANCED ENGLISH II INTERMEDIATE ENGLISH II BASIC ENGLISH II LISTENING・SPEAKING II	2 2 2 2	
家庭	家庭総合	2	家庭総合	2			調理演習 袖服演習	2 2					調理演習 袖服演習	2 2
情報			社会と情報	2	情報演習	3					情報演習	4		
総合	サステナビリティ基礎 自主研究5×2(課外)	2	サステナビリティ演習Ⅰ 自主研究5×2	2					サステナビリティ演習Ⅱ 卒業研究	2				
単位数合計	36		23		9		6		15		12		0~6	
特別活動	LHR	1	LHR	1					LHR	1				
総合計	37				39						29~35			

サステナビリティ基礎、演習Ⅰ・Ⅱ

サステナビリティ（持続可能性）に関わる社会課題を探究する授業として、「サステナビリティ基礎」「サステナビリティ演習Ⅰ・Ⅱ」を、高1～高3の総合的な学習の時間（2単位）に実施している。

高1全員（100名）が履修する「サステナビリティ基礎」は、「災害と地域社会」「開発経済と人間」「環境とライフスタイル」という3つの視点（テーマ）の基本的な理解と課題研究へのモチベーション喚起が目的。①教科の異なる3名の教員がチームとなり、3名×3チームで指導する「教科横断型授業」、②10月に岩手県釜石市を訪問し、社会課題の現場で学ぶ「釜石フィールドワーク」、③慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科と連携し、大学院生・留学生とともにICTを活用してグローバルな課題を学ぶ「グローバルワークショップ」の3つの内容を実施している。



高2・高3の「サステナビリティ演習Ⅰ・Ⅱ」は、「災害と地域社会」「開発経済と人間」「環境とライフスタイル」の3つのゼミに分かれ、各学年45名（15名×3）の生徒が選択履修する（非選択者は「自主研究5×2」を履修）。それぞれが関心を持ったテーマについて、本校教員2名と大学の研究室・専門の研究者による指導・助言を受け、海外フィールドワークを経ることにより、グループ研究を深化させていく。研究成果は、英語プレゼンテーション（高2）、英語研究論文（高3）にまとめ、ルーブリックにより評価を行う。

	災害と地域社会	開発経済と人間	環境とライフスタイル
主な連携大学	慶應義塾大学環境情報学部 大木聖子研究室	シンガポール経営大学 経済学部 藤井朋樹研究室	慶應義塾大学理工学部 伊香賀俊治研究室
海外FW	台湾（台中） 	シンガポール 	マレーシア（ジョホール） 

3つのスキルアップ・プログラム

課題研究や海外の高校生との研究交流の土台となる力を身につけるため、(1) 行動力の向上、(2) 英語発信力の向上、(3) スタディスキルの向上の3つのプログラムを企画・実施し、全教員がSGH事業に関わる体制としている。

「行動力の向上」では、文化祭におけるSDGs企画、生徒会の呼びかけによる社会貢献活動、生徒主体の国際交流会などを実施。「英語発信力の向上」では、英語4技能向上のための授業改善、ネイティブ教員との連携強化、英語関連のコンテストへの参加推進などを実施。「スタディスキルの向上」では、ICT活用およびアクティブラーニング教員研修、中1「ICT学習」、中2「美術展づくりプロジェクト」などの特別授業を企画・実施した。

成果と課題

毎年2月に実施しているSGH研究発表会は、年を追うごとに発表内容が充実し、生徒・教員ともにSGHの成果を実感している。この5年間で、CEFRのB1レベル以上の生徒の割合（16%→60%）、国内外の課題発表会での入賞者数（3人→23人）海外大学への進学者数（1人→8人）など、設定した成果目標はほぼ達成することができた。SGH甲子園で、優秀賞（2017年、2018年）、最優秀賞（2019年）を3年連続で受賞できたことは、本校生徒の大きな自信となっている。

今後の課題は、①SGH予算終了後の高大連携、国内外FWの持続的な実施、②新たな数値目標の設定③教科内での探究指導のさらなる充実、である。

